総　括　報　告

東京大学医学部
井　上　英　二

本研究班の研究対象である心身障害の概念，心身障害の発生に関与する遺伝的要因，本研究班に先行した第一次遺伝研究班の目的および成果の概略，昨年度より発足した第二次遺伝研究班の目的と編成については，昭和５２年度に刊行された「遺伝・環境要因による心身障害の予防に関する研究」の研究報告書に記載した通りである。その中，研究班編成に当ってとくに留意した事項を再記すれば以下の通りである。

1. この研究は，将来の国民の健康水準の維持向上に資するため，遺伝的要因が関与する疾患を予防するという目的をもった応用研究である。

2. しかしながら，これはアカデミックな研究を軽視することではなく，純粋の基礎研究と単なる応用研究の中間に位するものも重視しなければならない。

3. 本研究班が対象とする心身障害は主として慢性の疾患であり，かつ，次の世代における発生の予防が必要である。従って，その対策は当然長期にわたるものであり，そのための恒久的な研究体制が不可欠である。

4. 現在はこの種の恒久的な研究体制は存在しないが，将来実現されることを期待し，本研究班はこれに移行できるようなプログラムによって研究を行なう。

5. 研究班を組織するに当っては，以下の条件を考慮する。

a. 昭和５２年１０月より開始された遺伝相談事業，および先天性代謝異常スクリーニングをバックアップする機能を有する組織とする。

b. このため，副課題１として，「遺伝相談の運営，普及ならびに水準向上」の分科会，および副課題３「遺伝性疾患の診断に関する研究」の分科会を設け，後者の中で，先天性代謝異常の罹患者および保因者診断法の研究，診断を受けた個体の追跡，発症予防法の開発的研究などを行なう。

c. 複雑な遺伝的要因による心身障害についての研究は，今後一そう，その重要性を増すものと予期されるので，副課題４「多因子病の予防に関する

研究」の分科会を設け，実現可能な方途の研究を進める。さらに，環境要因の側から，心身障害の中の先天異常を対象として，実際の発生状況を監視する体制を確立するためには，如何なる問題点が存在するかということ主な課題として，副課題2「先天異常のサーベイランスと成因に関する研究」の分科会を設置する。

6. 以上の各副課題と，それらを構成する細分課題は，たがいに密接な連繋をとって研究を行なう。

以上の方針に従って，4副課題を構成する16の細分課題が決定され昭和52年度より研究が開始された。本年度はこの第1年度の成果に鑑み，副課題2とこれを構成する3細分課題に変更を加え，これにともなって一部の分担研究者と研究協力者の交替を行なった。本年度の各副課題と細分課題は目次にみる通りであり，それぞれの役割りを担当した研究班構成員は巻末の名簿に記載した通りである。

以上の組織によって行なわれた昭和53年度の研究成果が，以下に続く分科会報告に記載されている。これらの成果に関しては，巻末の議事録に記載されているように，評価委員から客観的な意見が寄せられており，本研究班に対する強い期待が表明されている。

いうまでもなく，将来の国民の健康水準の維持向上という目標に近づくためには，長期にわたる研究活動と恒久的な予防対策が必要である。以下の分科会報告の中には，それらの中で活用できる多くの成果が盛られているということができよう。

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

本研究班の研究対象である心身障害の概念, 心身障害の発生に関与する遺伝的要因, 本研究班に先行した第一次遺伝研究班の目的および成果の概略, 昨年度より発足した第二次遺伝研究班の目的と編成については, 昭和 52 年度に刊行された「遺伝・環境要因による心身障害の予防に関する研究」の研究報告書に記載した通りである。その中, 研究班編成に当ってとくに留意した事項を再記すれば以下の通りである。